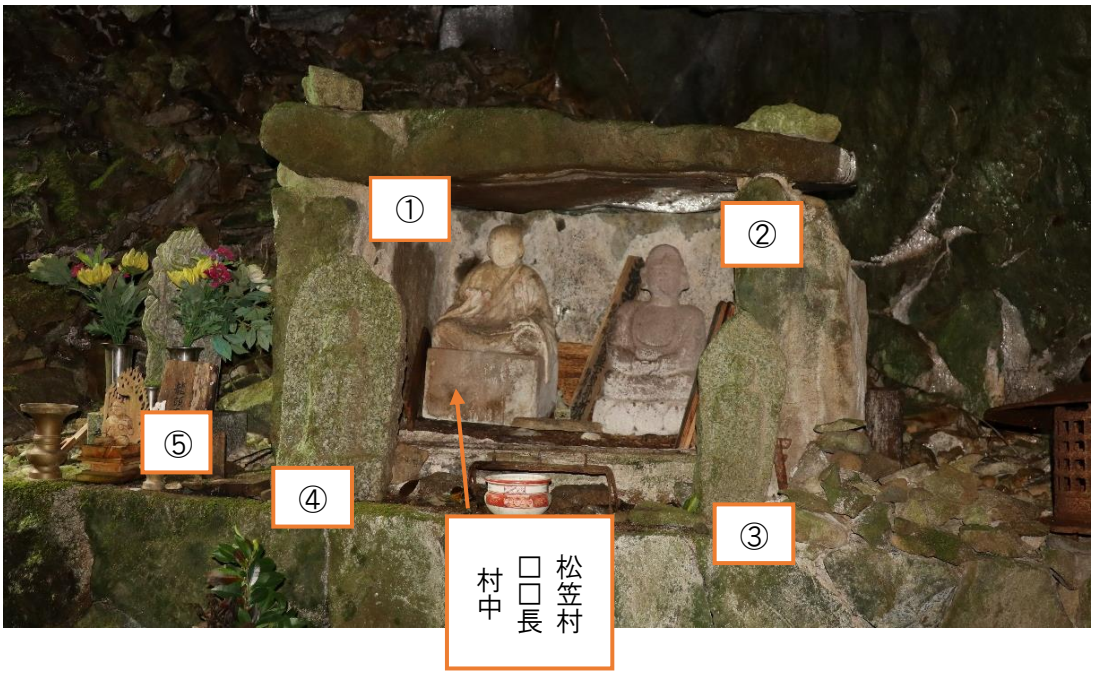
「龍頭が滝案内」　第６回

「滝観音」・・・洞窟内のもう一つの龍頭が滝信仰

明治 40(1907)年 10 月、３柱の神様を祀る滝神社は松笠天満宮に合祀されました。その結果、滝の洞窟は空っぽになりました、ということではなくて、『掛合町誌』によると、滝観音が祀られているとのことです（同誌 P802)。

観音様は仏様ですから、合祀の前までは洞窟の中で滝神社（神道）と観音様（仏教）とが同居し、一緒に祀られていたと思われます。今では奇異に感じられますが、江戸時代までは神仏習合の思想（仏が神の姿で現れ功徳を示す、という仏教と神道を融合させた思想）が一般的であり、こういう状態は普通だったのでしょう。明治元(1868)年に明治政府から神仏分離令が出され、現在の姿になりました。

では滝の洞窟の中を探検してみましょう。石段を上るといくつかの石像に出会えます。
①の仏像は右手に金剛杵（こんごうしょ）でしょうか、法具を持っています。台座に彫られた文字は「松笠村　□□長　村中」（□は判読できず）と読めそうです。「村中」なので、松笠村挙げて安置されたことが想像できます。姿から、地蔵菩薩かもしれません。
②は蓮の葉の台座（蓮華座）に座り、体の前で印を結んだ仏像ですが、風化が少し進んでいます。こちらが滝観音（すなわち、観音菩薩）なのかもしれません。
③④は石に仏像と文字が彫られているようですが、判然としません。
⑤は「龍頭不動明王」と刻まれていますが、まだ新しい仏像のようです。
今回は滝観音について、想像をたくましくしながら紹介をしました。
滝観音についてご存じのことがあれば、教えていただければ幸いです。